

平成21年度 課題

- ①「言語事項」主語・述語の関係を考える問題が44.6%で課題がある。
- ②「読むこと」で「叙述をもとに想像しながら読む」「段落相互の関係を考えながら正しく読む」が66.7%で課題がある。
- 文学的な文章の表現の工夫を捕らえるが33.3%で課題がある。
- 接続語を使って内容を分けて書く項目が16.7%で課題がある

平成21年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

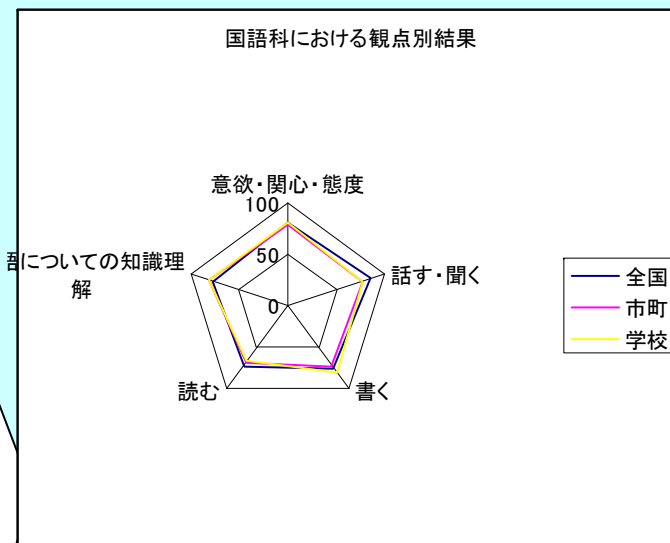
- ①「言語事項」では「ことばタイム」で主語・述語の関係を考える問題を取り入れていった。
- ②「読むこと」では説明文の学習を中心にキーワードや接続語に着目し段落相互の関係を考えながら筆者の主張をまとめさせていった。その際、中心文を見つけたり、文章構成図を書いたり、小見出しのキャッチコピーを考えたりするなどの指導を確実にしていく。
- ③「書くこと」では、文章構成を意識した授業を仕組んでいった。

標準学力調査通過率 学校平均

76.0%

三原市平均 76.2%

全国平均 77.1%



	平成21年度	差	平成22年度	差	全国
平均通過率	84.1%	-8.1	76.0%	-1.1	77.1%
国語への関心・意欲・態度	86.1%	-4.4	81.7%	+0.6	81.1%
話す・聞く能力	88.8%	-11.3	77.5%	-6.7	84.2%
書く能力	82.8%	-1.1	81.7%	+6	75.7%
読む能力	75.6%	-7.5	68.1%	-5.8	73.9%
言語についての知識・技能	92.2%	-12.1	80.1%	+2.4	77.7%
80%以上通過率	22人		14人		
80%未満～30%以上	10人		22人		
30%未満	人		人		

平成22年度 重点課題

- ◎「読むこと」では、「事柄の順序」(31%)「細かい点に注意して」(16.7%)「内容を大きくまとめながら」(50%)「段落相互の関係」(44.4%)の問題での正答率が低い。
- ◎「書くこと」では、主として大問5の問題を読み取り、条件に合わせて書く問題の平均正答率が17%で課題がある。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①「読むこと」では、説明文を読む学習では、「事柄の順序」「細部に注意して」「大まかに読む」「段落相互の関係」の4つを意識しながら各学年に応じた授業を組み立てる。その際、順序を示す言葉や中心文を見つけたり文章構成図を考えたりするなどの指導を行っていく。
- ②「書くこと」では、「ことばタイム」で文の並べ替えや要約の問題をしたり、で文章の構成を意識したりして授業展開を考えていく。また、総合的な学習の時間や社会科、理科、生活科で課題解決に必要な情報を収集し、事実と意見を区別したりしながら目的を明確にした文章を各活動を取り入れていく。

検証の方法と指標

- 単元末テスト「読むこと」の平均を85%以上にする
- 年度末の学力テストの「読むこと」の平均を70%にする。

来年度の目標値

- 全体の平均通過率を1.5ポイントあげる。
- 「読むこと」の通過率を2ポイントあげる。

標準学力調査通過率 学校平均 78.0% 三原市平均 80.6 % 全国平均 83.5%

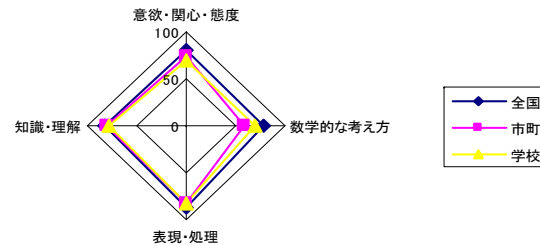
平成21年度 課題

- ①「数と計算」領域では、割る数が2位数のわり算、分数の意味が理解できていない。
- ②「量と測定」領域では、かさや面積の単位がわかり、量にあった単位を使うこと、複合図形の面積を求めることができていない。
- ③「数量関係」領域では、伴って変わる2つの数量関係を見つけることはできているが、その関係を立式することができていない。

平成21年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事

- ①単位分数の考えを図に表したり、○分のいくつ分と言い換えたりする活動を取り入れていく。また筆算の反復練習を行う。
- ②単位の前の数字の大きさに惑わされず、量にあった単位が正しく使えるようにさまざまな場面で日常的に単位を用いるような活動を取り上げ、実感を伴って単位の大きさを理解できるような活動を工夫していく。
- ③複合図形の面積は奇襲の内容を使って求積できることに気づかせ、大小2つの長方形で問題作りを考えさせたり、提示の仕方を工夫したりして複合図形の面積の求積が出来るようにする。

算数科における観点別結果



平成22年度 重点課題

- ①「数と計算」領域では、「集合数」「何百の加減」「整数÷整数で商が1より小さい」「少数÷整数」の正答率が低い。
- ②「数量関係」領域では、「棒グラフの特徴」「百分率を使って代金を求める」問題の正答率が低い。
- ③「図形」領域では、「正三角形の適用問題」「図形の角」「円の半径の長さの問題」の正答率が低い。

検証の方法と指標

- 単元末テスト「表現・処理」の平均を85%以上にする
- 年度末の学力テストの「図形」領域の通過率を70%にする。

	平成21年度	差	平成22年度	差	全国
平均通過率	91.1%	-13.1	78%	-5.5	83.5%
関心・意欲・態度	64.7%	+5.7	70.4%	-9.3	79.7%
数学的な考え方	83.5%	-14.7	68.8%	-9.9	78.7%
表現・処理(技能)	89.9%	-8.3	81.6%	-8.3	86.0%
知識・理解	85%	-7.2	77.8%	-4.3	82.1%
80%以上通過率	30人		22人		
80%未満～30%以上	2人		15人		
30%未満	人		1人		

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①新しい計算の学習では既習の計算との違いをはっきりさせ、課題を焦点化し計算させていく。また、家庭学習で全学年の計算問題をさせて、計算の仕方を忘れないようにさせていく。
- ②グラフの学習では、折れ線グラフと棒グラフを比較していくことで、それぞれのグラフの特徴をより鮮明に意識付けていく。百分率の学習では、数量の大きさを全体と部分、部分と部分の関係であらわす方法として割合があるという基本をしっかりと押さえていき、1に対する割合を整数で表す方法として百分率があること理解できるように指導方法を改善していく。
- ③図形の学習では、様々な方法で図形を提示し図形感覚が豊かになるようにしていく。また、既習の図形を構成したり分解したりする活動を取り入れ図形の性質をより明らかにしていく。

来年度の目標値

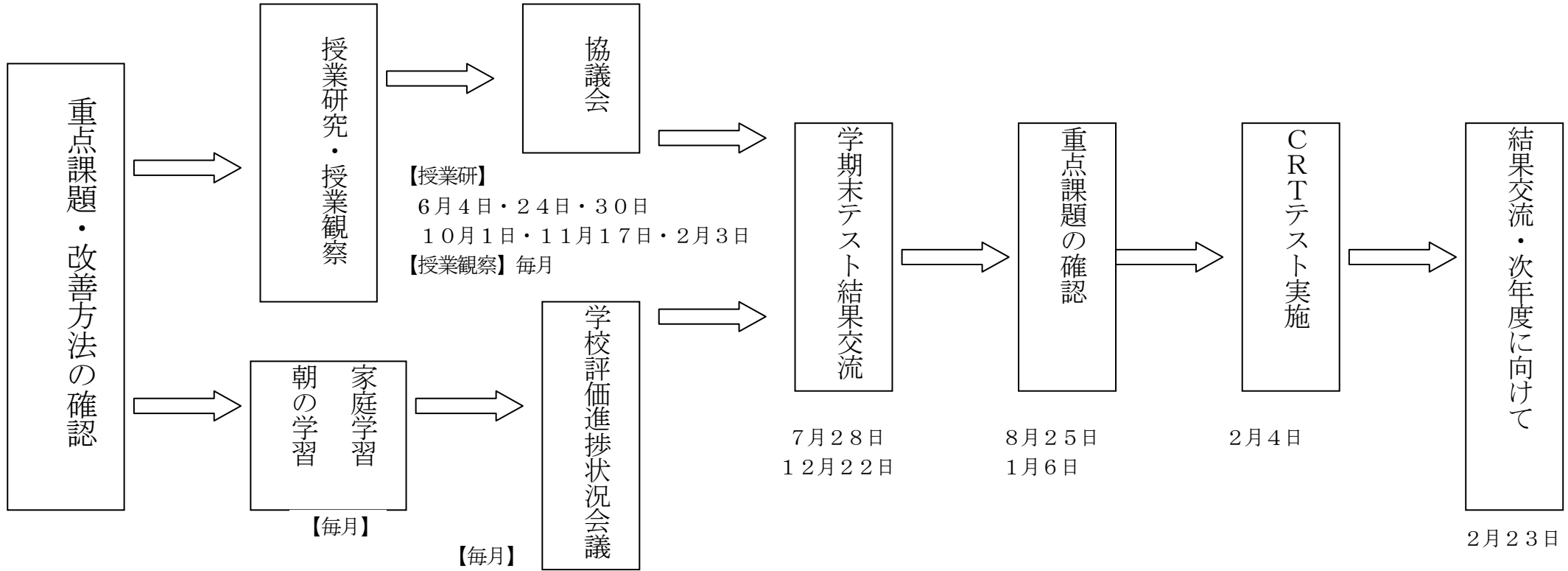
- 全体の平均通過率を1.5ポイントあげる。
- 「数学的な考え方」を1ポイントあげる。

取組みを進めるための計画

分析

いつ	6月下旬	研修形態	個人・集団	リーダー	教務主任
----	------	------	-------	------	------

進捗状況把握の方法



進捗状況の把握

いつまでに	1月下旬	どのような方法	CRT学力検査
-------	------	---------	---------

検証結果

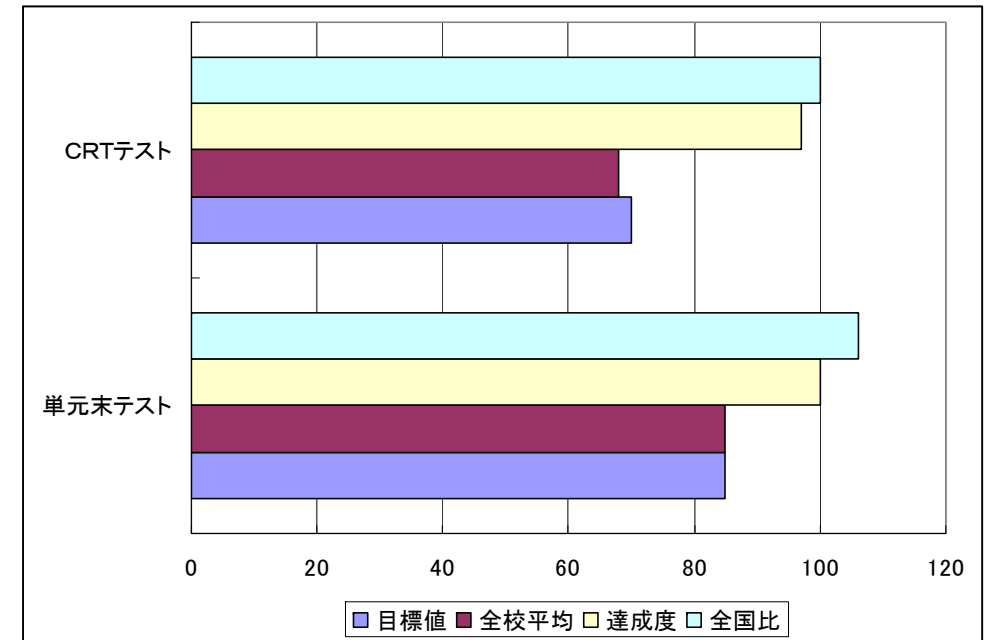
① 国語科

〈指標〉

- 単元末テスト「読むこと」の平均を85%以上にする
- 年度末の学力テストの「読むこと」の平均を70%にする。

〈結果〉

検証結果	目標値	全校平均	達成度	全国比
単元末テスト（読むこと）	85	85	100	106
CRT学力テスト（読むこと）	70	68	97	100



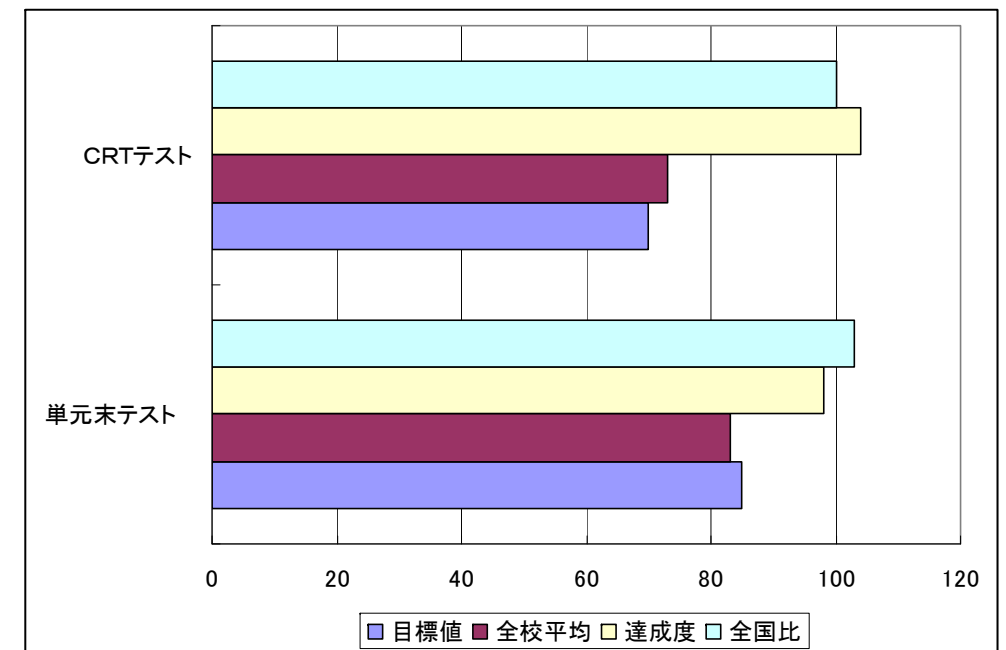
② 算数

〈指標〉

- 単元末テスト「表現・処理」の平均を85%以上にする
- 年度末の学力テストの「図形」領域の通過率を70%にする。

〈結果〉

検証結果	目標値	全校平均	達成度	全国比
単元末テスト（表現・処理）	85	83	98	103
CRT学力テスト（図形）	70	73	104	100



成果と課題

成果

- ① 国語科
 - ・ 年度末学力テストでは、「事柄の順序」「要旨」「段落相互の関係」「主題に気をつけながら」読む小問では、問題の過半数が全国通過率を上回っていた。
 - ・ 「読むこと」を支えることばに関する知識的な力を伸ばす取り組みとして、「ことばタイム」を行った。語句の使い方や主語述語、形容詞、指示語、動詞、修飾関係を問う小問の正答率が全国通過率を上回った。
 - ・ 説明文を読むときには、語句に気をつけながら、文章構成を考えながら読む児童が増えてきた。
- ② 算数科
 - ・ 深め合う授業モデルを教職員で共有して授業に取り組んだ。その結果、「理由付ける」「比べる」「つなげる」学習の型を意識しながら発言する児童が増えてきた。また、図形の学習では、既習の図形を構成したり分解したりする活動を授業に取り入れていったので、提示された図形の向きだけでなくいろいろな向きや折り重ねに気をつけて問題を解こうとする児童が増えてきた。
 - ・ 図形領域では、三角のなかま、三角形の角、立体に関する小問が全国通過率を上回った。
 - ・ 表現処理の領域では、加減の筆算、除法（あまりのない）、小数、分数の乗法に関する小問が全国通過率を上回った。

課題

- ① 国語科
 - ・ 物語文の読解で、「登場人物に関する」「場面」「叙述」「詳しい内容」の読み取りの正答率が全国通過率を下回ったので、授業において、授業モデルを大切しながら、登場人物と場面の関係や文と文のつながりに気をつけながら読み取らせていく。また、学年によってばらつきが見られるので、家庭学習で一人学びのプリントをさせるなど実態に応じて指導する。
 - ・ ローマ字、修飾の関係、語句の類別の問題など日常的に活用させる場（連絡帳の記入、ことばコーナーの設置等）を設け定着を図る。
- ② 算数科
 - ・ 表現処理の通過率は83%で4月よりも2ポイントアップしたが、あまりのあるわり算や分数の計算の問題の正答率が横ばいなので、引き続き家庭学習や放課後の学習などを繰り返していく。また、つまずきのある児童への指導は、家庭学習のプリントに苦手なパターンの問題を載せるなど繰り返し丁寧に行っていく。
 - ・ 図形領域では、目標の通過率70%に対して3ポイント上回ってはいるが、次年度目標通過率80%を目指し、図形の性質などの基本を確実に押さえ、学力調査において通過率が低い問題に取り組ませていく。